



## 国語科の実践

本校国語部は、児童が本気で考え、学びを深める授業の創造を目指して、これまで領域を問わず課題発見・解決学習の単元開発を行ってきた。しかし、各種学力調査を分析すると、「読むこと」の中でも説明的な文章についての課題が大きいことが分った。そこで、本年度は、説明的な文章を対象に課題発見・解決学習の単元開発を行うこととした。

### “本気”のための

## 「課題の設定」過程の工夫

### ①児童の関心に沿った「課題の設定」を行う

国語科では、まず、ねらいに沿って教材文を読み取る活動を行う。そのため、単元の初めは、教材文の題材への関心を高め、教材文を読み取る課題を設定する。そして、「課題の追求」でその課題を解決するために教材文を読み取る活動を行う。その後、教材文の読み取りを振り返り、児童の関心や疑問を広げることにより、関連図書を読み取る課題を設定し、「学びの深化」で解決を図るようにする。このように、児童の関心に沿った「課題の設定」を行うことにより、児童に教材文や関連図書を読み取る目的を明確にもたせ、意欲を高めることができる。

### ②情報を限定して提示し、疑問を引き出す

単元の初めに、写真や文など情報を限定して提示し、既存の知識やイメージとずれを生じさせる。このことにより、「なぜだろう」「～についてもっと知りたい」という疑問や思いを引き出し、知りたいことを明確にしたうえで、課題を設定する。そうすることで、児童が主体的に教材文や関連図書を読み取ることが期待できる。

### ③ねらいとする力をつけるとともに、児童にとって魅力がある言語活動を設定する

教材文や関連図書の読み取りは、設定した言語活動を通して行う。児童が単元のねらいとする力をつけることはもとより、「やってみたい」「できそうだ」と感じる魅力ある言語活動を設定する。このことにより、言語活動を展開する中で、楽しみながらねらいとする力をつけることができる。

### “本気”のための

## 「まとめ・振り返り」過程の工夫

### ①言語活動の成果を交流・発表・報告する

「課題の追求」「学びの深化」で作成した言語活動の成果物（図鑑、パンフレット、紙芝居など）を用いて、調べて分かったことやそこから考えたことを交流・発表・報告する時間を「まとめ・ふりかえり」に位置付ける。このことにより、児童が目的をもって言語活動を展開するとともに、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。また、児童に達成感を味わわせ、単元の学びの価値や自己の成長を自覚させることもできる。

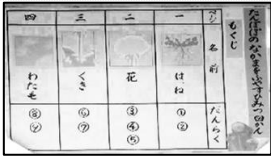
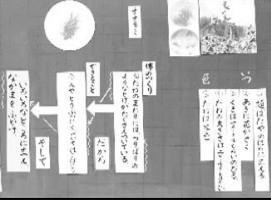
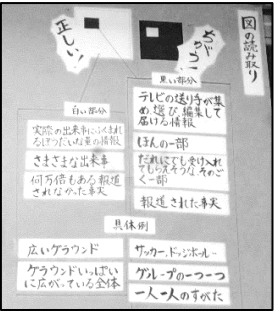

## 見方・考え方を働かせる指導の工夫

新学習指導要領では、〔知識及び技能〕に「情報の扱い方に関する事項」が新設され、国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つであると位置付けられた。この「情報の扱い方に関する事項」は、〔思考力、判断力、表現力等〕の各事項と関連付け、言語活動を通して育成するとされている。

そこで、本年度は、説明的な文章にかかわる「読むこと」の指導事項と「情報の扱い方に関する事項」を相互に関連させた授業づくりを行った。

### ①教材の工夫

児童が文章を読んで、言葉の意味、働き、使い方や情報と情報との関係等に着目するよう、教材をそのまま扱うのではなく、教材にしかけをつくって提示するようにした。そして、それについて話し合う中で、児童が対象と言葉、言葉と言葉の関係を捉えたり問い直したりしながら思考・判断・表現するようにした。

<p>A 順序を変える</p>	<p>順序を変えて提示した挿絵を、叙述に沿って並び替えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材文で説明されているたんぽぽの体の部分の絵をばらばらに提示し、正しく並び替えさせることにより、説明の順序を捉えさせる。</li> </ul> 
<p>B 選択肢を作る</p>	<p>複数の選択肢を提示し、どれを選べばよいかを比較して考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>植物の体のつくりを複数提示し、仲間を増やすひみつに応じた体のつくりを考えさせることにより、多くの情報の中から、植物の体の仕組みと仲間を増やすひみつとの関係に着目して情報を選び出す必要があることを捉えさせる。</li> </ul> 
<p>C 置き換える</p>	<p>教材にある言葉、絵、図を他のものに置き換えて（間違えて）提示し、どこが違うのか、なぜ違うのかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白と黒の面積を逆転させた図を提示し、なぜその図は間違っているのかを話し合わせることにより、図の表している意味を叙述を基に読み取らせる。</li> <li>船の「つくり」や「できること」を誤った文に置き換えて提示し、間違いの理由を考えさせることにより、「やくめ」「つくり」「できること」の関係を理解させる。</li> </ul> 
<p>D 隠す</p>	<p>大切な言葉を隠し、どんな言葉が入るかを叙述を基に考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歯が抜けたときの願いに繋がるキーワードを隠すことにより、その言葉に着目させ、言葉のもつイメージを広げて願いを想像しやすくする。</li> </ul> 

E 加える	<p>不要な情報を加え、その情報がいない理由を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材文の中に、家のつくりに関係がない情報を付け加えて提示し、どの情報を選べばよいのかを吟味させることにより、土地の気候や特徴と関係のある情報を選ぶ必要があることに気付かせる。</li> </ul>
F 限定する	<p>教材文や図、絵、写真等の全部を提示せず、その中から情報を限定して提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二種類の消防自動車の写真に限定して提示することにより、前面はよく似ているのに、つくりが違っているのはなぜかという疑問を引き出し、乗り物について調べる目的をもたせる。</li> <li>「歯がぬけたらどうするの」という題名のみを提示して自分の経験を話し合ったり、担任やALTのやり方を聞いたりすることで、やり方の違いへの疑問を引き出し、教材文を読む目的をもたせる。</li> </ul>
G 分類する	<p>観点に沿って、情報を分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取った情報を、「国名」「歯が抜けたときにすること」「そこに込められた願い」の三つの観点で表に整理させ、色々な国の相違点や共通点に気付かせる。</li> </ul>
H 図解する	<p>読み取った情報を図に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生態や巣、環境などについて読み取った内容を図に整理することにより、動物の巣と生態や環境との関係を捉えさせる。</li> </ul>
I 配置する	<p>叙述を基に挿絵や文を図に配置させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>抜けた歯の絵を板書の図に配置させ、その国のやり方を確認するとともに、そのやり方をとる理由を考えさせることにより、やり方と願いとの関係を理解させる。</li> </ul>
J 仮定する	<p>「もし～ならば」と仮定し、結果や効果について推論させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビーバーがダムを作らなかったと仮定して、どのようなことが起こるのかをダムを作った場合と対比させながら説明させることにより、ダムを作る必要性を理解させる。</li> </ul>

